



17日(木)、18日(金)と、6年生が修学旅行に行ってきました。昨年度までも、旧5校が同じ日程で修学旅行を実施し、連合小学校として活動していましたが、行程中の行動は学校ごとに行っていました。各学校20人ほどの修学旅行から100人の修学旅行へ。豊中小学校初めての修学旅行記です。

20人が100人に そして さらに広い世界へ

100人が動くことで、食事や見学など、これまでとは様子が大きく変わりました。グループごとの写真撮影や、東大寺大仏殿での「大仏の鼻の穴くぐり」も、かなりの時間を要することが予想されました。特に大仏殿の込み具合によっては、もしかすると鼻の穴くぐりは断念しなければならないと聞いておりましたが、幸い例年になく空いており、無事に体験することができました。

建仁寺では、座禅体験の後、住職から、お釈迦様が説かれた84,000の生き方の一つについてお話をいただきました。

「諸悪莫作(しょあくまくさ)・衆善奉行(しゅぜんぶぎょう)」

「悪いことをせず、いいことをしなさい」という意味であり、3歳の子どもでも理解できます。しかし、80歳のお年寄りでも実行できる人は少ないでしょう。その当たり前のことを続けるのが難しく、大切なのだということを教えていただきました。



【大仏を見上げる】



【建仁寺座禅体験】

その一例として住職が挙げられたのが、「腰骨を立てる」ということでした。これまでに会ったスポーツ選手や音楽家、実業家など、世界で活躍する人は皆、姿勢がよく、腰骨が立っていたそうです。本校が取り組む「立腰教育」にも通じるお話でした。

「腰骨を立てる」ということは、子どもたちも知っています。しかし、それを日頃から実行できているかどうか。そこが、子どもたちが飛躍できるかどうかの分かれ道かもしれません。

修学旅行中、子どもたちはたくさんの外国の方々とも出会いました。臆することなく“Hello!”と声を掛ける姿も見られました。

映画村では、一人の男の子がネパール出身の方に一生懸命英語で話しかけていました。“What’s your name?”と尋ねると「あ、私、日本語話せます。」と返ってきました。思わず微笑んでしまう場面でしたが、人とコミュニケーションをとることは、案外難しいことではないのかもしれません。大切なのは「人と関わろう」とする気持ちです。子どもたちは、これから「世界」を舞台にたくさんの人と関わりながら生きていくのですから。

100人という集団の中で自分はどう動くのか。指示待ちで他の人についていけばいいという意識では、少々たくましさ欠けるようで寂しくも思います。これから、さらに広い世界に出ていく子どもたちです。統合してたくさんの友達の中で生活できる今も大切な機会です。環境が人を育てます。大人数だからこそ自分で判断し、行動できる力を身に付けてほしいと思います。きっと、できます。